

長門國  
下關港

直指難波

〔西遊雜記〕長門國豐浦郡赤間ヶ關ニ下ノ關トモ、赤馬關トモ、書西國第一の湊にして、浪華より、及中國に及び、九州北國船路往來の咽くびにて、諸國の廻船よらざるはなし、市町及び○及びニ壹方に及ぶ、言語あしからず、諸への便も至てよく、繁昌富饒の地といふべし。

〔諸國湊附〕長門

一下關津湊、口之廣拾町程、深サ五丈計、東請豐前國田浦之前瀬有、面楫に置、南に去げに惡し、下關之内に竹崎いさきと云湊有、何れも船懸り有、いさき北前江乘るに小瀬戸有、潮時を考乘、豐前長門の間に大瀬戸と云有、潮早○下

筑前國  
博多港

〔西遊雜記七〕博多の地古き湊にて、むかしは蠻船著岸し、九州第一の湊なりしゆへに、古跡の所も數多にして、名所の古歌も多し、いれ衣の舊地尋湯家も見え、諸國の通路もよき所也、海は深からずして、大船今は入津ならず、○下

岡港

〔筑前國續風土記十三遠賀郡〕岡湊

蘆屋のみなとなり、或岡の津岡の浦とも稱す、仙覺萬葉の抄には、岡の水門は、筑前國にあり、風土記には、瑠舸縣カの東の側に近く大なる江口あり、名て瑠舸水門といふ、大船を容るに堪たりといへり、日本紀に、神武天皇、日向國より東征し給ふ時、先筑紫の岡の水門にいたり給ふよし見えつる、然ば人皇のはじめより、すでに此跡の名はいちじるく見えつれば、いと久しき名所なり、或の曰、内浦と吉木村の間、むかしは入海にて、是を岡の湊ならんかといふ、此說非なり、右の仙覺が引ける風土記の説を以て見れば、蘆屋なる事疑なし、いはんや又蘆屋の里民も、むかしより此跡を岡の湊と云傳へてより語り侍ける、歌には、水くきの岡の湊とも讀り、○中此所北面に海有て、其東は遙際なくはるかに、唐土の海に通すれば、つねの風波あらくして、船客の魂を驚す、されば此